

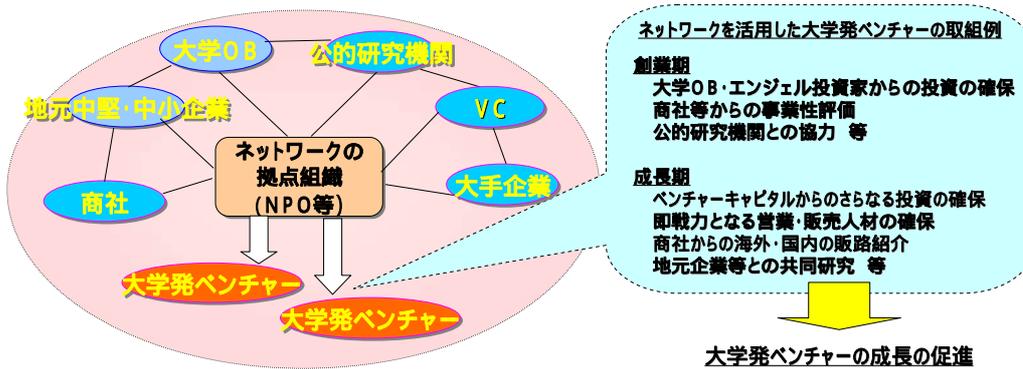
大学発ベンチャー支援者ネットワークの強化

地域の経済発展を図る上で、大学等の研究成果に基づく新事業創出は大きな鍵として期待されている。そのためには、先発の大学発ベンチャーが事業化に成功することにより、後継の起業家に良い刺激を与えるようなスパイラルを生み出すことが重要。

現在、大学OBや地元産業界有志が**地域再生・地域おこし**のために、大学発ベンチャーを支援する取組を行っているものの、人的ネットワークが乏しいことから十分な支援を行うことは困難な状況。

このため、**大学OB・公的研究機関・ベンチャーキャピタル等の大学発ベンチャー支援者のネットワークを強化**することにより、その人的ネットワークを活用して大学発ベンチャーの**販路開拓**や**資金調達**等を支援し成長を促進する。

大学発ベンチャー支援者ネットワークの強化イメージ



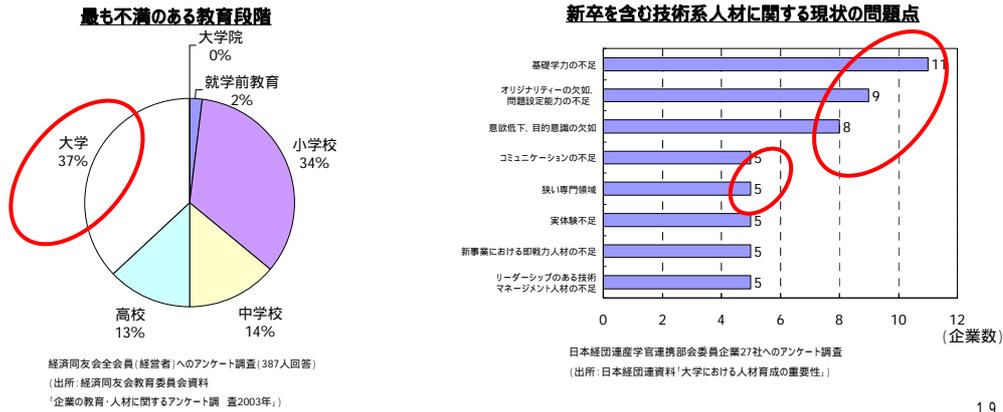
18

・産学連携による産業技術人材育成

1. 産業界の求める人材と大学が輩出する人材との間のミスマッチ

産業界は、**大学を最も不満のある教育段階**であり、新卒の技術系人材に対しては、「**基礎学力の不足**」、「**問題解決能力の不足**」、「**目的意識の欠如**」、「**狭い専門領域**」等の問題点があると指摘しており産業界の求める人材と大学が輩出する人材の質的ミスマッチが存在。

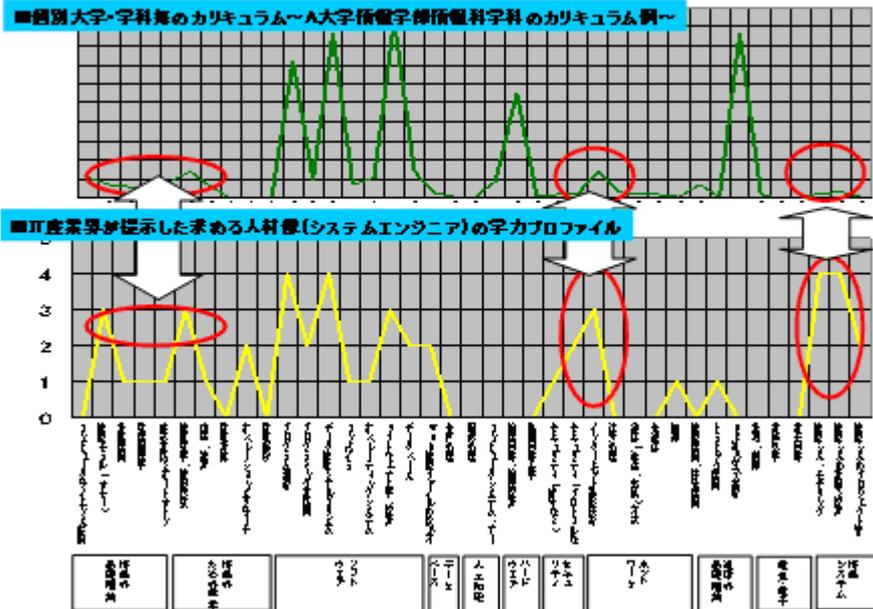
他方で、産業界は、求める人材像について具体的な提案をしなかった経緯がある。今後、産業界の求める人材と大学教育のミスマッチを克服するためには、**まず産業界が自らが求める人材に必要な知識・能力を抽出し大学側に提示することが不可欠**。



19

2. 産業技術人材の「学カプロフィール」と大学等の教育カリキュラムのミスマッチ分析

○経済省では、平成14年度から、まずIT分野を対象に、産業界が求める人材に必要な知識・能力を示す「**学カプロフィール**」と大学の教育カリキュラム・教育体制のミスマッチを明らかにする調査を開始。今後、ITに加えバイオ分野等でも同様の取組を開始。



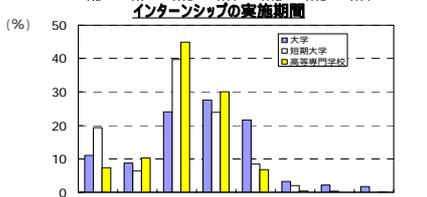
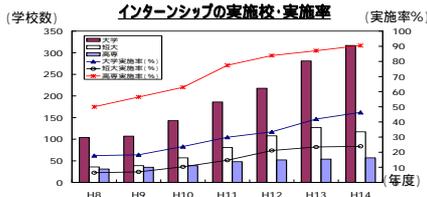
20

経済産業省

4. インターンシップの現状と課題

インターンシップは、理論の実践による学習効果の向上等高い教育効果があるとされる。実施校・実施率は順調に伸びてきており、**大学では約半数、高専では9割近くの学校で導入**。一方、その中身は、就職を控えた3～4年生を対象とした**短期間の社会見学的なもの**が多い。

今後、真に教育効果の高いインターンシップを行うためには、**将来のキャリアプランを構築することを目的とした1・2年生対象のインターンシップ**、**大学・教授のコミットの下で、実ビジネスの課題解決等を行う実践的なインターンシップ**など大学・学生・受入企業のそれぞれの目的を明確化することが必要。



【実践型インターンシップ】

・我が国では**2週間程度**のインターンシップが主流であり、大学・大学院の学生に求められている実践力を養成することを達成できるものとはなっていない。

・我が国の産業競争力を担う、真に実践的な人材育成を行うためには、大学と企業の強固な連携が不可欠であり、大学・教授がコミットした長期間にわたる実践的インターンシップ推進に向けた検討が必要。

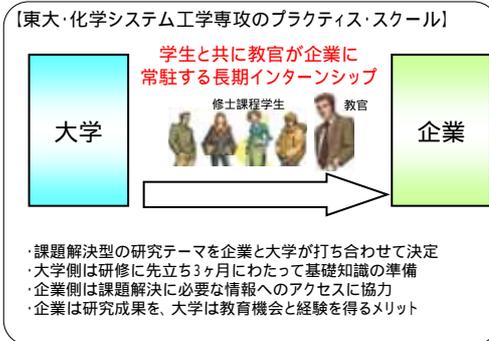
	従来型インターンシップ	実践型インターンシップ
実施学年	大学3年	大学1～4年、大学院生
実施時期	夏期休暇中	特に関係なし
実施期間	大学・短大は2週間程度	1ヶ月から1年以上
運営体制	教授のコミットはほとんどなし	教授が中心となり運営
派遣先	大企業中心	中小・ベンチャー企業中心
報酬	基本的になし	基本的にある
事前研修	マナー研修が中心	授業一体型のもの等、事前に就業に必要なスキル修得

出所：「大学等における平成14年度インターンシップ実施状況調査結果について」(文部科学省)

経済産業省委託調査「起業家型人材育成のための産学協同教育プログラムについての調査研究(H15.3)」

23

(参考) 実践的なインターンシップの実施の例(国内外)



- ・米国製造業の主要企業 (GM、ボーイング、ヒューレットパカード、コダック、インテル等)の協力的なコミットを得てMITにおいて教育プログラムを88年に発足。現在までに約500名の卒業生を輩出。
- ・パートナー企業からの研究テーマに応じた6ヶ月間の実践的インターンシップを実施。
- ・企業1社当たり2500万ドルを負担と全米科学財団(NSF)からの財政支援で実施。
- ・LFM卒業生の具体的な成果例としては、ボーイング社において、737型航空機の組み立てラインの流れ作業化の成功GMの製造現場において、リーン・プロダクション・システムの定着化など

24